

第6回県立高等学校入学者選抜調査改善委員会

議 事 録

- 1 日 時 平成 29 年 3 月 23 日 (木)
午後 3 時 00 分～4 時 40 分
- 2 場 所 神奈川県教育委員会 委員会会議室
- 3 出席委員等 田中 統治 種田 保穂 林 巧樹
松本 一彦 佐藤 均 稲田 義郎
九石 美智穂 土佐 明美 折笠 初雄 (敬称略)

(事務局)

定刻になりましたので、ただ今から第6回県立高等学校入学者選抜調査改善委員会を始めさせていただきます。

昨年3月から6月にかけて皆様にお集まりいただき、御協議いただき、6月3日「最終とりまとめ」を教育委員会に報告いただいたところですが、本日、この間の取組や入学者選抜の結果について皆様に御報告をさせていただく場を設けましたので、よろしくお願いします。

本日の資料の確認をさせていただきますが、次第に、本日の報告資料1、2、それから参考資料1～8、8は学力検査問題となっておりますので、御確認をいただければと思います。

「県立高等学校入学者選抜調査改善委員会の設置及び運営に関する要綱」第7条第1項に「委員長が座長となる」とありますので、進行を田中委員長にお願いいたします。

委員長 (田中委員)

それでははじめます。

ただ今、事務局からも話がありましたが、昨年6月に、調査改善委員会としてのとりまとめを行い、教育委員会に報告をしたところですが、それから早いもので9ヶ月が経過しました。今回、この間の取組や入学者選抜の結果について報告をいただくということですので、よろしくお願いします。

まず、本日、神奈川県PTA協議会ですが、笹原会長が御欠席でございます。

また、本日、オブザーバーとして、県立学校長会議入学者選抜研究会会長、県立

湘南高等学校の稲垣校長先生にお越しいただいております。県立学校長会議入学者選抜研究会として、現場の声を反映させながら、教育委員会とともに入学者選抜の実施に取り組まれた視点から、後程お話いただければと思います。

それでは、議事に入ります。

(1) 「会議公開の可否について」でございます。

本日は、「再発防止・改善策」に基づく、平成 29 年度入学者選抜実施結果が、主な議題となっています。報告の関係上、個人情報扱う場合や入学者選抜の特殊事情に関係するなど、やむを得ない場合は非公開とさせていただくこともございますが、協議は公表資料を基に行いたいと思いますので、公開としてよいでしょうか。もし、具体的な事例について聞きたいということであれば、協議外のところで事務局から説明させます。よろしいでしょうか。

(出席者一同、了承)

はい、ありがとうございます。

それでは、協議を原則として公開して行うことといたします。

傍聴希望者及び記者を入室させますので、しばらくお待ちください。

それでは、議事を進行してまいります。議事に入ります前に、事務局から何かございますでしょうか。

(事務局)

本日は、年度末のお忙しい時期にも関わらず、第 6 回県立高等学校入学者選抜調査改善委員会へ御出席いただき、ありがとうございます。

さらに、委員の皆様には、日頃から県教育委員会の取組に、御理解と御支援をいただき、感謝申し上げます。

私の方からは、最終とりまとめをいただいた以降の本日までの概要について、お話をさせていただき、その後、詳細な報告をさせていただきたいと思っています。

平成 29 年度入学者選抜ですが、2 月 15 日に共通選抜の学力検査が行われ、2 月 28 日に合格発表、その後、二次募集や定通分割選抜が行われました。

昨日、22 日には定通分割選抜合格発表を終えまして、今後は、定通分割選抜の二次募集が行われ、30 日の合格発表まで続くという日程になっております。

2 月に実施した共通選抜学力検査におきましては、再発防止・改善策に位置付けた県教育委員会による再点検を終えまして、先日 3 月 17 日金曜日、神奈川県議会文教常任委員会において、「再点検を実施した結果、すべての学校において、統一した基準により適正に採点が行われていることが確認できた」ことを報告したところでございます。

これまでを振り返りますと、平成 27 年度及び平成 28 年度入学者選抜学力検査における採点誤りが判明し、昨年 3 月 29 日に、第 1 回調査改善委員会を開催して以降、全 5 回に渡りまして、採点誤りの調査分析と原因究明、再発防止改善策及び事後の検証方法につきまして協議いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

昨年6月3日に御報告いただいた「最終とりまとめ」を受けまして、県教育委員会として策定した「再発防止・改善策」に基づいて、平成29年度入学者選抜では、「マークシート方式の導入」「採点・点検方法の見直し」「記述式問題及び解答用紙の工夫」「答案写しの交付」「教育委員会による再点検」等に取り組んでまいりました。

調査改善委員会の皆様はもちろん、公立中学校長会や県立学校長会議の学校関係者の皆様の御協力もいただきながら、県教育委員会と学校が一体となって、採点誤りの再発防止に努めてまいりました。

本日、まだ選抜日程の全ては終了しておりませんが、ここまでの平成29年度の入学者選抜実施結果につきまして、現段階で御報告できる内容を御説明申し上げますが、「再発防止・改善策」が適正に機能しているかを御確認いただき、次年度以降の入学者選抜の改善に資するために、それぞれのお立場から進言いただければと思っております。

なお、この調査改善委員会は、本日をもって閉じさせていただき、新年度に入りまして、今回の入学者選抜全体を総括し、議論する場を、改めて設けることにつきまして、検討してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

委員長（田中委員）

それでは、続きましては、「再発防止・改善策」に基づく平成29年度入学者選抜実施結果について、事務局より御報告をお願いします。

（事務局）

入学者選抜改善担当課長の宮本でございます。本日、私の方から資料に基づきまして、昨年来取り組んでまいりました「再発防止・改善策」について、取組状況等含めて御報告させていただきます。

まず、報告資料の1の1ページをお開きいただければと思います。平成29年度県立高等学校入学者選抜における取組についてということで、まず1つ目としてこれまでの経緯でございます。先ほど課長からの御説明いたしましたとおり、昨年3月に平成27年度、平成28年度の入学者選抜において、採点誤りがあったということが判明いたしました。その際に、本来合格とすべき受検者を不合格としてしまったということも起こったところでございます。これを受けまして、調査改善委員会を設置し、協議をいただきまして、6月に「最終とりまとめ」を報告いただきました。そして教育委員会としての「再発防止・改善策」を、同じく6月に作成をいたしましたところでございます。その後マークシートの導入も含めて、予算措置が必要でございましたので、9月に補正予算を計上いたしまして、新たな採点システムの導入経費、また、不合格としてしまった受検生の方への損害賠償等含めて、和解金について、補正予算に計上してお認めいただいたところでございます。そして10月には、後程御説明いたしますが、マークシート導入のリーフレットを中学校の3年生向けに配付をし、また12月には、マークシート解答用紙のサンプルを中学校3年生向け

に配付をしたところでございます。そしてマークシート読み取りの機械の導入準備を進めまして、採点システムに関する各学校の担当者の研修会を実施いたしました。

同時並行で、「再発防止・改善策」の中で位置付けられました、基本マニュアルの見直しにも取り組み、12月に各学校に周知を図ったところでございます。これについても後程説明をさせていただきます。

これらを含めまして、各学校でも校内研修会を実施するなどいたしまして、今年の1月には、マークシートの読み取りを含めました本番のシミュレーション研修会を私どもが本部となって主催をさせていただき、各学校にお集まりをいただいて実施したところでございます。そして2月15日に、今年度の学力検査を迎えたというところでございます。

また、マークシートの読み取りにつきましては、今年度は拠点で各学校、答案を集めて行いました。これを学力検査の翌日と翌々日、16日、17日の2日間をかけまして、行ったところでございます。

各学校では、見直した基本マニュアルに基づきまして、2系統での採点や合否判定分岐点の再点検等を実施しながら、各学校で判定会議等行い、2月28日に合格発表をしたというところでございます。

後程御説明させていただきますが、合格発表日に答案の写しと採点結果を全受検者に交付をしたところでございます。3月には、私ども教育委員会による再点検、各学校から抽出による再点検を実施しまして、本日を迎えているという状況でございます。

それでは、2の「再発防止・改善策」の取組状況について説明をさせていただきますので、恐縮ですが、報告資料の2をお開きいただければと思います。「再発防止・改善策」の取組状況ということで、一番左側の列が調査改善委員会、皆様方からいただきました最終とりまとめを8項目にまとめたものでございます。真ん中「再発防止・改善策」というのが、県教育委員会でその後策定いたしましたものでございまして、一番右側がその取組状況となっております。項目ごとに説明をさせていただきます。

まず1番目といたしまして、記号選択式問題における解答方法としてマークシート方式を導入すべきという御提言をいただきました。これを受けまして私ども県教育委員会としましても、マークシート方式の導入を図ることを決定いたしまして、一番上の取組状況にありますように、先ほど申し上げました予算の確保、機器の導入、受検者への周知、サンプルの配付、拠点での読み取りとなっております。

この受検者への周知とサンプルの配付につきまして、少し御説明させていただきますので、恐れ入りますが、参考資料の3と4を御覧いただければと思います。

参考資料の3はカラー刷りになってございます。これが10月に各中学校3年生、受検を迎える皆さんへということで、マークシート方式の導入についてリーフレットを作らせていただき、お配りをさせていただいたものでございます。表面には、マークシート方式の解答用紙のイメージから始まりまして、適した筆記用具、マーク欄の塗り方などについて説明をさせていただく内容となっております。塗り方についても良い例、悪い例を示して、受検生が正しく塗れるように周知を図ったとこ

ろでございます。裏面を御覧いただきますと、これまで数学の問題等では、記号選択の問題というのはなかったわけでございますけれども、今年度からこの「問2」にございますように、選択問題を入れて、その場合には、こうやって塗るのですよ、というような形での解答方法について、確認するような内容を盛り込ませていただきました。そして下には、「注意しようマークミス」ということで、実際にマークの受検番号欄を紹介し、マークの漏れですとか、複数マーク、あるいは桁の間違いですとか0（ゼロ）と1の間違いといったようなマークミスについて、注意してくださいというような形でアナウンスをさせていただいたところでございます。

参考資料の4、これは12月に中学校3年生に対しまして、お配りをさせていただきました。昨年度、平成28年度の学力検査問題を基に作成をした解答用紙のサンプルということで、実際のマークシート用紙に近いものを、前年度の問題を使って作りまして、中学校3年生全員にお配りをいたしました。こういった解答用紙を実際に見ていただいて、実際にこの用紙を使って練習等をしていただいたところでございます。

それでは、報告資料2の項目の2番に戻らせていただきます。記述式問題の採点・点検方法としましては、2系統採点あるいは、マニュアルの整理、採点・点検での役割分担等御提言をいただいたところでございます。これを受けまして、「再発防止・改善策」としましては、基本マニュアルの見直し、記述式問題の2系統での採点・点検、記述内容のチェックと誤字脱字チェックの役割分担の項目に分けさせていただきました。それぞれ、取組としましては、基本マニュアルを整理いたしまして、このマニュアルの中に、今申し上げた点を盛り込み、各学校では、これに基づいて採点・点検を行っていただいたという状況でございます。このマニュアルにつきましましては、参考資料の5を御覧ください。昨年調査改善委員会でも基本マニュアルについて御議論いただきました。昨年までのマニュアルはもう少し薄いものでございましたが、今回、様々な採点・点検方法も含めまして、かなりボリュームのあるものになっております。この中で記述式の採点、2系統の採点、あるいは誤字脱字のチェックというところで、マニュアルの9ページを御覧いただければと思います。9ページの真ん中ほどに、記述式問題の採点業務の概要というのをお示ししてございます。今回、系統の1と系統の2、これをそれぞれ独立して採点・点検して照合するというを実際行っています。誤字・脱字等のチェック機能といたしまして、系統3というのを設けまして、確認をしながら合わせて照合作業に入っていたという状況でございます。これが業務の内容でございます。このあたりにつきましましては、13ページ以降に少し細かな資料を記載させていただいておりますので、また後程御覧いただければと思いますが、13ページの例えば、エでは、中間点のない記述式問題の採点・点検方法についてお示ししています。ここには、系統3はございません。系統1と系統2で照合作業を行っています。実際右側のページを見ていただきますと、系統1、系統2でそれぞれ独立してどのように採点していくかというのが、お分かりいただけるかと思っております。昨年までは、かなり小さな解答欄に○をつけていただいておりますけれども、今回の中では、解答の横に大きく○ですとか×をつけられるようになっていることがお分かりいただけると思っております。

15 ページには、中間点のある記述式の採点・点検ということで、先ほど9ページで御説明させていただいたような表をお付けして、細かな採点・点検方法について、記載をさせていただいたというような状況でございます。それでは、少しお戻りいただきまして、報告資料の3、その他検討すべき採点・点検方法といたしまして、合否判定の分岐点付近の受検者に対する再点検の強化、あるいは答案を学校間で交換するなどしての再点検というのを御提案いただきました。その中で県教育委員会としましては、合否判定の分岐点、いわゆるボーダー付近の受検者に対する再点検をしっかりとやるということで、改善策を策定して、実際に右側にありますように、分岐点上下15点以内の全受検者に対する再点検を実施しました。そのことにつきましては、マニュアルの43ページに記載をさせていただいています。各学校で再点検、対象者も2倍に行っていただいておりますが、一次選考、二次選考共に合否判定の分岐点の15点以内の受検者に対して、再点検を実施していただいたというところでございます。先に進ませていただきます。

報告資料2の4番。採点・点検に専念できる環境の確保といたしまして、採点員の追加、採点作業スペースの確保、業務分担の明確化や休憩時間の確保といった御提案をいただきました。そのことに基づきまして、私どもの方では、現行で1日で設定している採点日を1日追加したり、会議スペース等の確保、休憩時間確保の徹底、入学者選抜期間における業務管理の徹底について、改善策の中に盛り込みました。実際に採点日としましては、在校生の登校を禁止する日を2日に設定をいたしましたり、入学者選抜期間における業務管理の徹底についてマニュアルの中に盛り込んだりしたところでございます。この業務管理の徹底等につきましては、マニュアルの3ページの3のところに書かせていただき、各学校で取り組んでいただいたところでございます。

報告資料の2の裏面を御覧いただきまして、5番。作問出題形式、解答用紙の工夫改善では、記述式問題の分量やその質を含め、出題形式の見直し、小問ごとの集計がしやすいような工夫、あるいは解答用紙のレイアウトの見直しといった御提案をいただきました。そのことを受けまして、改善策の中でも記述式問題の見直しや解答用紙のレイアウトの見直しを位置付けています。取組状況としましては、記述式問題の質を確保しつつ、分量について見直しを図る。あるいは、解答用紙とレイアウトとしましては、マークシートの導入を図ったこと、マークシート以外の解答用紙のレイアウトの見直しも行ったところでございます。これにつきましては、後程御説明させていただきます。

続きまして6番。採点・点検に対する意識の向上、規範意識の向上でございます。これも「再発防止・改善策」の中で、意識の向上を図る研修の実施や、行政文書管理規則の遵守・研修、こういったことを盛り込みました。その中で取組状況でございますが、意識の向上について基本マニュアルにも明記いたしましたし、年次研修、これは例えば1年目の初任者、2年経験者、3年目の教員など、年次ごとに経験年数に応じて研修を実施しておりますが、この年次研修の中で、入学者選抜業務の重要性や、意識の向上について啓発を図ったところでございます。そして各学校の中でも研修を実施していただいております。行政文書管理規則の遵守、昨年答案の誤

廃棄がございましたので、入選関係資料の保管についても、基本マニュアルの中に明記をいたしました。そして同じく年次研修の中でも、保存期間の考え方や適切な保管の徹底について啓発をしたところでございます。今申し上げた部分につきましては、先ほどのマニュアルの2ページに、一番冒頭のところに、入学者選抜業務に対する意識の向上というのを一番上に持って来まして、その下に選抜業務の中での入選関係資料の保管についてということで、保存期間等も含めてお示しをし、保存期間という考え方も次のページ3ページの一番上に、表形式でお示しをして、いつまでの保存が必要なのかということを含めて具体的にお示しをしたところでございます。

それでは、報告資料の7番でございます。その他の改善策といたしまして、答案用紙の保存期間の延長について御提案をいただきました。これにつきましては、答案用紙の保存期間を1年から3年に延長させていただくという改善策を盛り込みまして、実際には県教育委員会の行政文書管理規則、この規則を改正いたしまして、保存期間を1年から3年に延長したところでございます。

それから最後の8番でございます。入学者選抜実施後の検証方法ということで、合格発表以降、簡易に答案の写しを速やかに交付できるしくみ、県教育委員会における抽出による再点検、あるいは、実施後の検証組織の設置について、調査改善委員会の方から御提案いただきました。それを受けまして、「再発防止・改善策」の中では、合格発表日以降、全受検者に答案用紙の写しを交付する。あるいは、県教育委員会での再点検、第三者委員会による客観的な立場からの検証というものを盛り込んだところでございます。実際の取組状況でございますが、先ほど申し上げたとおり合格発表日に合否結果通知書と併せまして、全受検者に答案の写しと採点結果の交付を行いました。これにつきましては、参考資料の6と参考資料の7を併せて御覧いただければと思います。

参考資料の6でございますが、「県立高校を受検するみなさんへ」ということで、これは県ホームページにも掲載をいたしましたし、また、2月15日の学力検査日当日にも、受検者の皆さんにお配りをさせていただきました。実際には、答案の写しと採点結果をこのようにお渡ししますよということで事前の周知を図ったところでございます。下にイメージを表・裏ということで、抜粋でこれは皆さんに事前にお配りをしたもののなのですけれども、これをあくまでも昨年度の28年度のサンプルで作ったものが、参考資料の7でございます。こういったものが実際に御本人に採点結果として、今回お渡しをしたというものでございます。見ていただきますと、これは英語でございますが、上に受検番号・氏名・得点が記入されておりまして、右側にマークシートの実際の画像を写し出しております。この画像は、採点する前の本人が実際に答案に書いた解答そのものでございます。これに対しまして、左側に1つひとつの問題ごとに正誤、○×ですとか、得点や配点について、記載をいたしまして、合計点が右上にあるように72点ですということで、これを各教科ごとにお渡しをしたということでございます。裏面を見ていただきますと、裏面はマークシート画像の実際の用紙の裏面でございます。裏面には主に記述式問題の解答が印刷されています。マークシートそのものにつきましては、表面にすべてマークが塗

られていますので、マークの採点はこの表面で行っているのですが、こういったものが、各受検生の方に出されたということでございますので、参考に御覧いただければと思います。

それでは、報告資料に戻ります。県教育委員会の再点検につきましては、3月10日から14日の4日間かけまして、抽出による再点検を実施いたしました。これについては、後程説明をさせていただきます。そして最後に第三者委員会ということで、本日調査改善委員会で御報告をさせていただいておりますが、先ほど課長からも話がありましたとおり、新年度以降の検証方法につきましては、今後検討していきたいと考えております。再発防止改善策の取組は以上でございまして、報告資料の1の2ページにお戻りをいただきまして、今回の共通選抜、県立高等学校に限った部分になりますけれども、共通選抜の結果の概要について、御説明させていただければと思います。まず、(1)受検者の状況につきましては、資料を御覧いただければお分かりかと思いますが、受検者、全日制でいえば、47,800人の受検者に対して、合格者が40,000人となっております。この受検生に対しまして、マークシートで解答していただいております。(2)のマークシート関係でございまして、学力検査の受検者の内訳でございまして、実際にマークシートを使って受検をされた生徒さんは、46,400人あまりとなっております。マークシート以外の受検者の方も実際にはいらっしゃいます。例えば、特別募集や中途退学者募集、あるいは、実際に問題用紙にルビを付けて解答をしていただく、漢字がなかなか読めない、外国から帰国された生徒等だと思われまして、こういった生徒さんに対してルビ付きの問題を作っております。これにつきましては、マークシートでの対応が難しいことから、一般の解答用紙を使って、受検をしていただいております。このマークシートですけれども、皆様参考資料の8といたしまして、本年度の学力検査問題をお配りさせていただいております。一番上の外国語、英語の資料を見ていただければと思います。この中に、実際のマークシートを入れ込んでございます。これが、今年度の外国語のマークシートの解答用紙でございまして、表面にマークシートの解答と記述の解答が混在しておりますけれども、英語については、裏面はございません。教科によって裏面を使わせていただいている教科もございまして、それから、併せて綴じさせていただいているもう1枚折ってある解答用紙がございまして、それが今申し上げたマークシート以外の解答用紙でございまして、実際にルビ付きの生徒さんには、ルビが付いたりしているのですが、これを御覧いただきますと、昨年、調査改善委員会でいろいろと議論いただきまして、採点がしやすい、あるいは、小計合計がしやすいものということで解答用紙のレイアウトについて、工夫をさせていただいております。波線の右側が、教員の方で実際に採点をし、得点を記載している部分でございまして、ここに例えば問1のアでいえば、No. 1から2、3、4、実際に解答欄が並んでいます。この解答欄と同じ配置で小計欄を設けまして、記載がしやすいようになっています。各小問ごとに配点を書かせていただいておりますが、昨年までは同じ小問の中にも2点の問題であったり、3点の問題であったり混在しておりましたが、今年度見ていただきますと、例えば問1であれば、すべてが2点になっておりますとか、問7であれば、5点の問題が並んでいるという形で、配点にも工夫

をさせていただいているところでございます。解答用紙のレイアウトについては、今のような形で御覧いただければお分かりかと思えます。

それから資料に戻りますけれども、マークシートの実際の読み取り時間ですが、各教科若干違いがございますが、大体 30 分程度で、マークシートの読み取りは終わっております。全教科で約 2 時間半程度、半日の作業でございましたが、拠点で半日をかけて読み取りをし、学校まで戻っていただきました。午前、午後、午前、午後という形で 2 日間かけまして、読み取りを行ったということでございます。マークシートの読み取りにつきましては、特に支障なく済んだという状況でございました。

次のウのマークシートの受検番号の読み間違いの件数でございます。先ほどリーフレット等で周知を図ったところではございますが、実際にマークシートの受検番号の読み間違いが、全体で約 2,000 件ほどございました。マークシート受検者 46,000 とありますが、実際には、五教科ありますので、200,000 枚くらいの中での 2,000 件でということで、割合としては、1%弱ということになります。ただ、こういった読み間違いについて当然いらいっしょるということは事実でございますので、引き続きまた今回新しい 3 年生に対しても、きちっとマークの塗り方等について、周知していく必要があると思っております。イには記述式と記号選択式の問題数と配点について、参考に記載させていただいております。

右側に移りまして、3 ページでございます。ウの中間点のない記述式問題の採点・点検時間とエの中間点のある記述式問題の採点・点検時間について、学校の平均をとらせていただきました。特に中間点のある記述につきましては、教科によってばらつきがございますけれども、今回 2 系統で採点し、点検をして照合をしたということもございまして、相当の時間をかけて採点・点検を各学校で行っていただいたということがお分かりかと思えます。

次に、(4)でございます。採点・点検業務にかかった日数等でございますが、今申し上げた記述式の採点・点検がほぼでございましてけれども、日数としては平均で 3 日かかっているという状況でございます。職員数、これは平均で 52 ということでございますが、全職員体制で採点・点検を行っていただいたという状況でございます。

次に、(5)の採点環境ですが、会場数といたしましては平均で約 3 会場でございました。昨年、この調査改善委員会の中で会場数について御報告させていただいた時には、約 1 会場であったり、2 会場ということで、かなり 1 つの会場の中で今までは行っていただいておりますが、今回 2 系統で独立して採点・点検を行いましたので、会場を少し増やして、各学校取り組んでいただけたのかなと思っております。また、休憩時間の取り方につきましては、学校それぞれでございますが、全職員一斉に取っていただいた学校が多かったという状況でございます。

次に(6)の合否判定分岐点付近の再点検、先ほど少し御説明させていただきましたが、全日制で、この再点検実施校の平均でとりますと、対象者が約 80 名強ということでございます。多い学校では 100 人を超える生徒さんがちょうどこの分岐点の 15 点以内の中にいらっしゃったということで、この再点検についても各学校の方でしっかり取り組んでいただいたということでございます。

次に、(7)教育委員会における再点検でございます。これは、全ての学校から、答案を私どもの方へいただきまして、抽出で再点検を実施いたしました。対象者数でございますが、全日制と定時制合わせまして約 6,300 人の受検生の方の答案について、再点検をさせていただきまして、担当職員、関わった人数としては 67 名ほどでやらせていただいております。この再点検の結果でございますが、さきほど冒頭、課長から申し上げましたとおり、各学校、それぞれの統一基準の中で適正に採点が行われたということ、私や職員、県教育委員会としても確認ができたという状況でございます。

そして(8)と(9)でございますが、まだ全ての入学者選抜が終わってない中ではございますが、3月14日時点でということで各学校に聞き取りをしたところ、学校への問合せにつきましては132件となっております。また教育委員会の方にも27件ほどのお問合せをいただいております。実際に採点に関わる部分でございますが、それぞれ各学校、私どもといたしましても、真摯に御説明させていただいております。また、自己情報開示請求につきましては、3月14日現在で42件となっております。昨年は、大体5月あたりで400件程度の自己情報開示請求がございました。今回、答案をお返ししているということもあってだと思っておりますが、自己情報開示請求の件数自体は大幅に減っているという状況でございます。

それから次に、1枚ページをめくっていただきまして4番、今後の課題と取組みということでございます。入学者選抜全体が終わりまして、また来年度に全体を総括して次年度につなげていきたいと思っておりますが、ここにいくつか書かせていただいております。

まず1つ目が共通選抜の学力検査以外の検査におけるマークシート方式の導入ということで、これは私ども内部で検討しなければならないと思っておりますけれども、今回共通選抜についてマークシートを導入しております。県の選抜というのは、いわゆる定通分割選抜というものがございますので、この定通分割選抜についてマークシート方式を導入するかどうかについて、私どもの中でしっかりと考えなくてはいけないと思っております。また、もう1つが学力検査問題について、質と量ということでございますが、今回の学力検査問題については、実際には記述式の問題数を減らすなどの工夫は、質を確保したうえでさせていただきました。ただ、引き続き、この部分については、私ども県教育委員会の中でも検討すべき課題と考えております。

また、マークシートの読取機でございますが、本年度は拠点で行いました。これは、かなり今回、準備期間が少なかったということもございまして、各学校に読取機を置いて読み取るということに対して、学校現場の習熟期間というのが当然必要でございます。その不足での学校現場の混乱を勘案いたしまして、今回は拠点で行いました。ただ、拠点で行うということになりますと、当然、運搬のリスクがございまして、この運搬リスクというのは非常に高いものでございます。来年度につきましては、議会が明日採決でございまして、通っているわけではないんですけれども、29年度、全校にマークシートの読取機を置けるような形で、今予算を計上させていただいております。県議会の審議を待っているという状況でございます。

お認めいただければ、全校配置を図って、各学校の中で採点・点検が終えられるように、私どもとしてはしていきたいと思っております。

また、今後、実際にマークシートへの解答を経験して、新入生が入ってまいりますので、その新入生に対しまして、今回のマークシートでの解答、試験というものがどうだったのか、ということについては、アンケート等を実施させていただきたいと思っております。また、それぞれ高校、あるいは中学の学校現場からの意見というものを今後ともいただきながら、要望等も集約して、次年度につなげてまいりたいと考えております。

最後に※印をつけさせていただいております。これは入学者選抜の制度そのものの見直しです。平成 25 年から現行の制度を行っておりますけれども、また次に選抜制度をどうするかということにつきましては、引き続き検討して改善を図ってまいりたいということで、ここに書かせていただいております。

少し長くなりましたけれども、資料の説明は以上でございますので、よろしくお願いいたします。

委員長（田中委員）

はい、ありがとうございます。ただいま、「再発防止改善策」に基づく、平成 29 年度の入学者選抜実施結果について報告がありました。取組の状況の項目、この表になっているものですが、8 項目にわたっておりますので、各項目ごとに御意見をいただきたいと思っております。

先ほど事務局からの説明にもありましたが、このメンバーでの協議は本日が最後となります。来年の入学者選抜に向けて、今後事務局が様々に検討していくことになると思いますが、そこにつながるように、更に改善した方が良いと思われる点などについて、忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。

最後に、各お立場からの一言ずつの御意見はまたお伺いしたいと思っております。

まず、第 1 の項目、記号選択式問題における解答方式としてのマークシート方式の導入ということについてであります。1 番目です。いかがでしょうか。御質問でも結構です。

（松本委員）

質問なのですが、機械を導入したうえでの読み取りのエラーと言えはよいでしょうか、例えば読みこぼしなどはどのくらいあったのかということはわかるのでしょうか。それをもし、うまく発見する方法は機械で読んだだけだとまた見つからないと思うのですが、もし見つける方法があったのかどうかということをお伺いいたします。

（事務局）

今、各学校の読み取りのエラーの件数全体については集計中で、細かい資料を持っていないので申し訳ないのですが、実際にはマークシートの読み取りにつきましては、1 つの解答に対して 1 つの正答を導き出す問題に、例えば 2 つマークが塗られ

ているというように、機械が読み取って反応する場合がございます。これをダブルマークということで、これは2つマークが読み取れましたよ、と機械が反応すれば、それが全てリストで出てきます。また、ノーマークということで、実際にはマークを塗る部分に1つもマークが塗られていないものも、これはノーマークということで、チェックリストが出てくるようなシステムになっています。

特にダブルマークにつきましては、例えば1つはきちっと塗っているけれども、もう1つが消し残しというのでしょうか、それも機械が読み取ってしまったというようなケースがもしあれば、これは実際にそれぞれ目で見て、明らかにこちらを塗っていると確認して、それをその生徒の解答ということで、また機械にそれを戻せば、正しく採点できるということで、必ずそこは目でチェックをしています。ノーマークについても、基本的にはチェックをして各学校に行っていただきましたが、ノーマークについては、実際に解答していない、無解答の生徒さんもノーマークとしてリストが出てきますので、それを見るのは各学校で、かなり大変だったと思いますが、例えばそこに消しゴムのかすがたまたまマークに乗かってしまって、それを読み取ってしまったというようなケースがないかどうかだけは各学校で確認していただいて、明らかにそこに何も塗っていないというものだけを各学校では確認していただきました。そういう意味では、機械の読み取りの結果とリストが出てきた、そのチェックを目で見て、確認して採点を進めました。そういう意味ではダブルチェックをかけて、やったという状況でございます。

委員長（田中委員）

他によろしいでしょうか。

（佐藤委員）

質問意見ということではないのですけれども、取組状況の中にございますが、受検者への周知やサンプル解答用紙の配布、それからその前に県教育委員会の方におかれましては校長会では何度も説明をしていただいたり、きめ細かい対応を丁寧に行っていただきました。おかげさまでこのマークシート方式の導入そのものについては、中学生については、個々のミスはあったものの、全体としては大きなトラブルなく、取り組めたのではないかと考えています。ありがとうございました。

委員長（田中委員）

他にはいかがでしょうか。

（稲田委員）

今の佐藤先生と関連してなのですが、学校現場にとりましても、教員の方もサンプルとかリーフレットを配付していただいたことで、イメージがつかめて、子どもたちへの指導もでき、良かったのかなと思います。以上です。

委員長（田中委員）

他にはいかがでしょうか。

（佐藤委員）

入れ代わり立ち代わり申し訳ないのですが、むしろ先ほども出ましたけれども、また次年度は教員のほうも入れ替わりますし、生徒ももちろん新3年生ということになりますので、その経緯とか趣旨とかですね、それらを継続的に職員や生徒に指導、周知することが中学校の方としては、引き続き課題であると思います。以上です。

委員長（田中委員）

他にはいかがでしょうか。

（種田委員）

マークシートについてはとてもいいと思うのですが、どうしてもマークシートになると、5択とか4択とかのような解答になってしまいますね。その時、私自身も作問する側で、いろいろ配慮はしているのですが、一定のところに正答がいく傾向、例えば5択だったら3番目にいくとか、そのような恐れというのはないのでしょうか。そこのあたりを検討されているかどうか。

（事務局）

作問の段階で、正答が偏った番号にならないようにであるとか、連続して、例えば、3ばかりが正答になるような形にはならないように、そこは適宜散らしながらも、例えば問題、順番によっては3、3と同じ番号が続くこともあろうかと思いますが、そのようなところも考えながらやっておりますので、これは今までもマークシートになる前も記号選択式はございましたので、そのノウハウをそのまま使わせていただいているというところでございます。

（種田委員）

それと、もう1つですが、マークシートだと塗ったところがどの辺かということが、少し見てわかりやすいですね。最近では、カンニングを防止する、簡単に見られないようにということで、ずーっと並べているとどこにマークがついているかという形で読まれてしまうので、そうではない形の、ぐるぐると円周に配置するかなにか、そのような工夫もやっているということを見たことがあるのですが、そういうことについては検討はされたのですか。

（事務局）

すみません。不勉強で申し訳ないのですが、今初めてそういうことをお聞きしましたので、来年度に向けては情報を集めて、カンニング防止というところの観点か

ら、おっしゃるように、視覚的にマークの順番が見えてしまうということがあるかと思いますが、参考に勉強させていただきます。ありがとうございます。

委員長（田中委員）

受検者から質問とかはありませんでしたか。サンプルが配られた時とか。

（事務局）

我々のほうには直接ありませんでしたが、中学校には何かあったでしょうか。

委員長（田中委員）

生徒さんは慣れているのでしょうか。

（事務局）

個々の教室ではいろんな先生と生徒の間にはいろいろあったのかもしれませんが、大きな声としては伺ってはおりません。

委員長（田中委員）

はい、わかりました。よろしいでしょうか。

では、第2の記述式問題の採点・点検方法についてはいかがでしょうか。

基本マニュアルの見直しによって、分厚くはなりましたけれども、系統的にできるような形になったと思います。それから、記述内容のチェックと誤字・脱字チェックというような役割分担を行って、それぞれチェックする部分を集中する箇所が明確にされたと思います。いかがでしょうか。

（事務局）

一部、事務局の方からも説明させていただきますと、記述式は2系統の採点については、昨年、調査改善委員会の中でも、採点はもちろん大事なんだけど、点検機能がしっかり働いていないと、なかなかミスがなくなるという御意見をいただきましたので、やはりこの2系統で独立して採点することによって、照合したときにそれぞれ採点が違えば、当然そこで浮かび上がってきますので、今回も恐らく2系統で採点・点検する中で、照合の段階でどちらかが違って、きちんとそこで話し合いをして、どれが適正な解答なのかということを見極めていった例は各学校であると思います。そういう意味では、2系統の採点・点検機能は効果が発揮できたのではないかと、事務局としては思っております。

委員長（田中委員）

採点の過程ではいかがだったでしょうか。機能しましたでしょうか。

照合をどのぐらい何回行ったかとかいうのも1つ現場での注意喚起にはなったかと思いますが、さらにマニュアルの整備は続けていっていただくということで、改善されたということでもよろしいでしょうか。

では3番目、その他の検討すべき採点・点検の方法について、分岐点付近の受検者に対する再点検の強化、答案を学校間で交換するなどの採点業務ですが、学校間での交換はあったのでしょうか。

(事務局)

学校間での点検について、報告の中にはございましたけれども、日程的に一番、例えば合格発表の前までに何をするか、合格発表が終わってからどういう形でさらに点検するかというところの中で、優先順位といたしましては合格発表の前に分岐点の点検を各学校でやってもらう、合格発表以降は教育委員会での抽出の点検をさせていただくという形でやらせていただいたということで、そこはちょっと申し訳ないですけども、学校間で交換するという点については、どこの時点でどういう形でやるかということを検討した結果、より効率的に点検ということで、先ほど申し上げたような形にさせていただきました。以上でございます。

委員長（田中委員）

御質問等ありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。それでは4番目、採点・点検に専念できる環境の確保ということで、採点日の追加、作業スペースの確保、業務分担の明確化、休憩時間の確保と1日の追加、登校を禁止する日を2日に設定されたということで、だいぶ余裕ができたのではないかと思いますし、また、空間ですね、業務管理という意味でも改善されたと思われま。いかがでしょうか。注意喚起ということで3ページのところに書かれたことですね、高校の先生方からの評価はいかがだったでしょうか。

(九石委員)

採点日として在校生の登校を禁止する日を2日ということで、採点日を1日追加されたということで、各校、採点のスケジュールが綿密に立てられたということ。それから、新しい制度でしたので、全校をあげて慎重に進めたこともあり、その進捗状況がなかなか見通しが不安だったわけですが、今回1日追加ということで、その中で採点が十分、点検、照合も含めてできたということにつきましては、引き続き、このような形でやっていくのがふさわしいと思っております。

委員長（田中委員）

1日追加ということで、やはりその日も使われたということですね。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では5番目に移ります。

作問、出題形式、解答用紙の工夫・改善です。ここでは記述式問題の見直し、それから解答用紙レイアウトの見直しが行われております。作問、出題形式については質を確保しつつ分量についての見直しということ、それからマークシート導入とマークシート以外の解答用紙のレイアウトの見直しということで、参考の試験問題の中に2つの解答用紙が入っておりますけど、マークシート以外の、従来どおりの

それはマークシートの記入がしづらいと受検生から要望もあったので、一部は旧来のもので解答しているということでもあります。割合的には非常に少ないと考えてよろしいでしょうか。

(事務局)

先ほど、資料の中の報告資料の1の「受検者」ですが、(2)のマークシート関係のところに、マークシートの受検者数が約46,000人という話で、マークシート以外の受検者が約230人、この200名程度の受検生の方は従来の解答用紙を使って解答していただいたということになります。

委員長（田中委員）

よろしいでしょうか。では次の規範意識ですね、意識の向上のところで、研修の実施、それから文書の管理規則の遵守、研修。これは主に採点をされる先生方の意識向上について、基本マニュアルの中に追記されたということで、今年度は特に注意をきめ細かくしていただく、これを継続していくような形にしていくということで、我々もさらに改善することがあるかもしれません。何かお気づきのことがありましたら御意見をいただきたいと思います。

(事務局)

少し補足させていただきますと、今研修のお話がございました。年次研修の中で、私も初任者研修ということで1年目の先生方の研修のところに出向いてお話をさせていただきました。例えば実際に、初任ですので、職員として、それまで臨任ですとか非常勤を経験されていた方もいるかと思いますが、いわゆる正規として入選に臨むのは初めての先生方でしたが、皆さん、真摯に聞いていただいて、昨年、そういう誤りがあったということは皆さん、御存じでしたので、採点誤りをなくしていかなければいけないという意識を持って私どもの話も聞いていただきましたし、文書の管理についてもきちんと保存期間ということも含めて、自分たちの中で認識を持って文書管理をしていかなければいけないというスタンスで聞いていただいたという雰囲気伝わってきたので、特にこういったことを新しい方には常に行って、皆さん、同じように課題意識を持って進めていただければありがたいなと思いました。続けていきたいと思います。

委員長（田中委員）

特に1月24日、25日に本番シミュレーション研修会が実施されました。2日間に渡りまして。

(事務局)

そうですね。この本番のシミュレーションというのは、実際のマークシートの読み取りを、先生方初めてでいらっしゃると思いますので、実際に機械を使って、先ほど少しお示ししました、昨年度の英語のサンプルなどに実際に答案を書いて、それを実

際に採点するのですが、マークについては、自分たちで読み取って、どういう結果が出てくるのかというのを、このシミュレーションの中で実際に体験をしていただいたということでございます。

これを実際の読み取りと同じように2日間かけて午前・午後、午前・午後とシミュレーションを本番と同様の形でやらせていただいて、2月16日、17日には、そのシミュレーションでやったのと同じように、各学校参加していただいて、読み取りが円滑に終わったという状況でございます。

委員長（田中委員）

はい、わかりました。各校の研修会は12月から1月と幅があるわけですね。

（事務局）

各校の研修会につきましては、学校のスケジュールの中で、やっていただきました。2月の15日が本番ですので、その前に行っていただければということで、各学校にはお願いしたところでございます。

委員長（田中委員）

わかりました。よろしいでしょうか。

7番、その他の改善策、保存の期間の延長、1年を3年ということですね。これは、特にございませんか。

（事務局）

これは、在校期間ですね、答案については保管させていただくということでございます。

委員長（田中委員）

では8番、入学者選抜実施後の検証方法ということで、合格発表日以降、全受検者に答案用紙の写しを交付したということで、これによって問合せがかなり減ったということもありますし、受検生にとっても、納得がいくところだったのではないかと思います。この辺はいかがでしょうか。

（松本委員）

8番の、教育委員会で1,800名ぐらいの方の再検査を、点検していただいたということなのですが、これは今後も毎年継続してやっていく予定でいらっしゃるのでしょうか。

（事務局）

少なくとも当面の間はやっていかざるを得ないだろうと考えております。その更に先という部分については、まだ検討はしていないんですけれども、今年でもうやらないということにはならないと考えています。負担でしょうけれど、たくさん

方に点検していただけるとありがたいなと思いましたので、是非よろしくお願ひします。

委員長（田中委員）

昨年は400件の開示請求で今回42件ということですが、答えは開示されていて、それ以外の開示というところのようなことでしょうか。

（事務局）

これは、採点をしたそのものの答案用紙の開示が、ここにあります自己情報開示請求の対象になりますので、実際は先ほど全員に配付するものは採点のあとが全くない、受検生が書いた生のもので開示されるだけですけれども、自己情報開示については、それに学校側がいろいろと採点をしたときに、三角だとか、この部分は何点入っているというような部分も含めた形の、採点し終わったものの写しが開示されるということでございます。

具体的にお話ししますと、マニュアルの35ページを御覧いただければと思います。マニュアルの35ページに採点の一覧が載っているかと思ひます。今回、記述式の採点につきましては、マークシート用紙を読み取った時に、先ほど一覧で見えていた画像で読み取っていますので、記述式のところだけを切り取って出力することができます。これを受検番号順に並べて、その受検番号順に並んだ記述式のものに対して採点をしています。よって、マークシート本紙には全く手をつけなくて、今回採点しておりますので、この記述の採点、一覧ですね、ここには実際に先生方が青で丸をつけ、赤で点をつけ、というのが残っています。ですから、自己情報開示請求していただいた方には、これを、その本人の分だけを抽出してお見せして、実際にどういふ採点結果だったのかというのを見ていただいているという状況です。

委員長（田中委員）

特に請求があつて、さらに問合せたということはないわけですね。

（事務局）

問合せをして、それでなおかつ自己情報開示請求をされている方もいらっしゃいます。そこまで実際に見て、説明も聞いて、納得をされたい方は自己情報開示請求をしていただいているという場合があります。

委員長（田中委員）

はい、わかりました。そのほか、よろしいでしょうか。

それでは、今日御出席の皆さんに、それぞれのお立場から、御意見等をいただきたいと思ひます。

まず、保護者を代表しまして、神奈川県立高等学校PTA連合会前会長の松本委員よりお願ひします。

(松本委員)

まずは、これだけ徹底してやっていただいで、ミスなくできたというのは、本当によかったなと思っております。ありがとうございました。

今回、初めての取組ですので、皆さんとても気を遣って現場でもやられたと思いますので、これを継続することが大事だと思います。今回経験された現場の先生方が感じたことをたくさん吸収していただいで、やはりミスがないことが当たり前になるようなことを現場でも意識することを周知徹底していただけたらなと思います。

委員長（田中委員）

ありがとうございました。続いて、中学校教育関係者として、佐藤委員よりお願いします。

(佐藤委員)

繰り返しになりますけれども、先ほど申し上げましたように、実施にあたっては、丁寧にきめ細かい指導を、中学校あるいは生徒にさせていただきまして、本当にありがとうございました。

中学校の課題としましては、先ほど松本委員もおっしゃいましたが、次年度以降も引き続き、その経緯や趣旨等を指導、周知してくことであると考えております。

それから、報告の中で、番号でいうと5番のところに、問題の質と量等の内容がありましたけれど、これは、今回の改善策の実施にかかわらず、校長会では、例年、全県にアンケート調査をしております、各教科ごとに、問題の質と量、あるいは、教科間の難易度に関わる調査をしております。今年度も行っております、現在集計中ですが、今回は、それに、マークシート方式の導入による内容も追加して、年度が改まりましたら、また報告申し上げたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。ありがとうございました。

委員長（田中委員）

ありがとうございました。同じく、稲田委員よりお願いします。

(稲田委員)

どうもありがとうございました。先ほどもふれたとおり、マークシートの導入ということに関しましては、本当に丁寧に、中学校、保護者、生徒に資料等提示していただきましたので、中学校現場での混乱はなかったと思っています。生徒への指導ということについても、引き続き、教職員にも、趣旨等、徹底していかなければならないと思っています。

あと、受検生に答案等の写し、採点結果を交付するという点に関しては、個人情報で、各校で検査の結果について受け止めるということでよいかと思っておりますが、慎重に扱わなければいけないと思っています。学校現場として、受検生への指導という点で、合格指導的な、いわゆる何点取ればどうのとか、ということに

つながらないように、学校現場で、個人情報ですので、今回に関しましては、学校で生徒の情報を取り扱うことは、慎重に行っていただくよう伝えたところです。要は、いろんなデータで、合否に関して資料が全て揃うというところもあると思うのですが、この情報については、そういう趣旨ではないということを、学校現場で扱わなくてはならないと思っています。ありがとうございました。

委員長（田中委員）

ありがとうございました。続いて、高校教育関係者として、九石委員よりお願いします。

（九石委員）

まず、今回このような調査改善委員会を発足するに至った原因としまして、平成27年度及び平成28年度の採点誤りを出してしまったということ、県立高校の一員といたしまして改めて申し訳ございませんでした。

調査改善委員会からいただきました点をマニュアルに盛り込んでいただいたということで、各学校、全県で、当然ではありますが、全力を上げて、入学者選抜に取り組ませていただきました。改善点につきましては、マニュアルの厚さからもお察しいただけますとおりに、かなり細かい点まで打合せをさせていただいて、現場でも踏襲してまいりたいと思います。

一方、新しいマニュアルシステムでございますので、細かい検討事項も出てくるかと思しますので、それにつきましては、鋭意、現場と教育委員会の方で検討させていただき、今後も改善を続けていきたいと、私自身思っております。

入学者選抜は年に一回のことでございますので、職員の入れ替わりもあり、改めて毎年毎年、一から確認をするというのが、今回の改善方法を引き継ぐということになると思いますので、その点についても、気を引き締めて、続けてまいりたいと思っております。本当にお世話になりまして、ありがとうございました。

委員長（田中委員）

同じく土佐委員、よろしく申し上げます。

（土佐委員）

ただいま九石委員からもお話がございましたが、私ども神奈川県の高등학교のために、委員の皆様には心から感謝を申し上げます。親身になって、色々な御意見を頂戴する中で、無事に終了できたことをありがたく思っております。

私の方からは、具体的に3点申し上げます。

1点は、マークシートにつきまして、現場を預かる校長として事務局のリーダーシップのもと完璧に近い形でできたのではないかと考えております。中学校への周知、それから、ダブルマークやノーマーク等の対応にかかる研修（シミュレーション）、その2点からも完璧にできたと思っております。

それから、採点の件ですけれども、こちらで御意見をいただいたとおりに、点検機

能がチェックしていないということを改善でき、改めて白紙の状態で複数2系統で採点するという事は、職員にとっても緊張感を持って臨めましたし、職員も、このやり方のほうがよいという意見でした。引き続き、改善点はありますけれども、基本的には、この形（採点+採点→照合）でよいのではないかと考えております。

最後に、この席で御意見を頂戴したことを反映できたこととして、先ほど宮本担当課長からもありましたが、年次研修に入学選抜に係る内容を取り入れたことも1つの成果だと思っております。

あとは、マークシートにかかる研修や記述の採点の校内研修を綿密にできたこと、それについても職員はとても真摯に取り組み、意識が高まった1つの要素だと思っております。

マークシートの件、採点の仕方、そして研修という3点について、委員会で御意見いただいたことを反映でき成果が表れたと思っております。ありがとうございました。

委員長（田中委員）

では、オブザーバーとして今日御出席いただいております稲垣校長先生からお願いいたします。

（稲垣オブザーバー）

県立学校長会議入選研究会会長の稲垣でございます。6月までの間に様々な御検討をいただき、本当にありがたく思っております。それを受けた形で、教育委員会とともに、今回マークシート導入、基本マニュアルの策定、それから研修のあり方、さらに実施までの間のところを一体となって、現場及び教育委員会とともにやってきたというところの結果として、今日の会議が開かれたことに関しまして、非常に感謝いたしております。九石委員が冒頭でお話されたとおりで、昨年度の様々な問題点につきましては、県立学校全体として、ある意味では陳謝するとともに、それに関わっていた生徒さん達もおりますので、心を痛めているところでありました。そういう中で様々な御意見を賜り、きちんとした実としての成果が得られるということは、非常にありがたいことだと思っております。まずこれについては感謝を申し上げます。

委員の方からお話をいただいたところにつきましては、次年度になりますが、入選研究会の方で十分にフィードバックしながら、こういう意見が出たということについては、全県立学校の中できちんと周知をしながら、さらにその中で、これで良かったわけではないというところでブラッシュアップをしながら、当然のことながら、事故は1つもないということが続けていくことが当たり前の話でございますので、そこにつきまして検討を重ねてまいりたいと思っております。

ちなみに、湘南高校は非常に受検生が多い学校でございまして、先ほども御質問等の中でありました、特に開示の請求関係は昨年度まで100件以上あった学校でございまして。ところが今回、交付をするということになった結果、典型的だとは思いますが、今回までのところで湘南高校については開示請求はゼロでござい

す。つまり、それだけ中学校の先生方、あるいは生徒さん本人が、私達が交付をした解答というものをきちんと見ていただいて、そこについてのいわゆる正当性を感じていただけたのではないかというふうに、これは結果として思っているところでございます。今後もこれにつきましては、中学校の方からもっとこうして欲しいというものがあれば、是非御意見をいただきながら、来年以降も教育委員会と話を詰めながら、より良い形で進められればと思っています。ありがとうございました。

委員長（田中委員）

続いて、教育委員会として折笠委員からお願いします。

（折笠委員）

平成27年度、28年度の採点誤りにつきましては、本当にあってはならないということで、教育委員会も厳しい気持ちでございました。この調査改善委員会で「最終とりまとめ」を提言いただいて、私どもも「再発防止・改善策」を策定して、今回の入学者選抜に臨んできたわけですけれども、今回のこのことは、教育委員会では最優先事項、最重要課題と位置づけておりまして、教育長もことあるごとにその話をしてまいりました。特に、県立学校長が集まる全体会の中でも、教育長自ら自分の言葉で、これはあってはならないことであると、教育委員会と学校が一丸となってしっかり入学者選抜をやっていると言いつけてまいりました。その結果、今回校長先生もいらっしゃっておりますけど、校長先生のリーダーシップの下、教職員も全て含めて、しっかり乗り切ろうという気持ちが表れたのではないかと考えております。新しい制度の導入ということで、なかなか厳しい面もあったのかもしれませんが、そういうことをおくびにも出さず、しっかり一丸となって取り組んでこられたということは、この調査改善委員会での様々な御指摘が活かされているのではないかと思います。

それから、先ほど中学校の方からお話がありましたが、本当に中学校の校長先生方には感謝したいと思います。一年という短い中での導入ということで、不安が広がるのではないかと考えたのですが、きちんと校長会の方で、中学校の校長先生以下、進路指導の先生も含めて、中学生が不安にならないように、心配しないでしっかり受検できるように御指導いただいたことに対しまして、この場をお借りして感謝申し上げます。ただ、これは、先ほど各委員から出ておりますけれども、あくまでこの結果を次の年も次の年もしっかりと引き継いでいかなければならないと、そういう決意でおります。本当にありがとうございました。

委員長（田中委員）

はい。ありがとうございます。続きまして、学識経験者として林委員どうでしょうか。

（林委員）

正直申し上げて、去年ここにお邪魔したときに、採点結果の例を見させていただ

いたときは、このデジタル時代にこれはひどいなど、これはミスが起きても仕方ないなど、そうしたお話を申し上げた記憶がありますが、本当にわずか一年でこれだけ、我々入試を扱っている人間から見ても、ほぼ完璧と言えるような採点をされるシステムを作り上げたのは、敬意を表したいと思います。特に、同一解答用紙で、マークと記述を併用するというのは、結構難しいです。採点する上でも、どういうふうにするのかと、結構我々も考えるものなのですが、それについても、2系統で行われるような形も作られて、マニュアルも細かく拝見しましたが、部分点、出し方、非常に細かなところまで記載されていて、しかもそれが、受検生から見ても納得できる、私もさんざん申し上げましたけれど、これで間違いにするのか等も踏み込んで検討されていることは、すばらしいなと思いました。また、答案用紙そのものの交付を全員にするというのは、たぶん他の都道府県ではされていないことだと思いますので、本当にこれは、むしろ我々大学側も目指さなければいけないくらい、受検生にとっては納得できる取組ではないかと思います。正直に言って、ここを変えた方がいいのではというところも思い当たらず、是非これを、先ほどからお話がありましたとおり、計画されて、また採点というのは、どうしてもどこかで気の緩みがありますから、今年この緊張感を是非、来年以降も続けていただきたいなと思います。

あと、このことには関係ないかもしれませんが、問題を拝見してしまして、文系と数学しか見ていませんが、国語の問題等も、正直すばらしい問題だと思います。新しい入試システムにつながるような問題を作られています。私はこの仕事で、全国を見ていて、どこも入試の採点をどうしているかと聞くと、結構グレーなのですね。なので、神奈川で構築されたモデルは、全国に是非伝えてあげてほしいとも思いました。どうもありがとうございました。

委員長（田中委員）

続きまして、種田副委員長。

（種田委員）

1年でこれだけ改善されたというのは本当にすばらしいと思いました。これをやはり継続していかなければならないことと、今後は作問の中身について量がどうなのかとか、質的な問題がどうなのかという検討をさらに続けていく必要があるかと思っています。また、今までミスが出てきたということは、どうしても採点が曖昧になることがあったと思うのですが、そういう曖昧にならないような問題を作るということが一番重要かと思っています。それと、今後の取組として学校現場など、いろいろな意見を聞くということがありましたけれど、学校現場だけではなく、例えば、塾とかはこういう意見は出てこないのですか。塾の方から入試に関する問合せ、あるいは提案ということは何かありそうに思うのですが。

（事務局）

公式的にはいただいてはいませんが、塾の方からもお問合せいただいたり、ある

いは塾側がいろいろなメディアを通じて、例えば問題について解説したり、評価をしたりということについては、我々もそれは情報としていただいております、そういうことも含めて、今後の取組みの参考にしようと考えております。

委員長（田中委員長）

はい。ありがとうございます。それでは最後に委員長として、私から申し上げます。これまで多くの委員から意見をいただきまして、約一年間、大変充実した改善が得られたのではないかと思います。マークシート方式の導入という思い切った改革に皆様御協力いただきまして、お蔭様でこういった成果が得られたということで感謝申し上げたいと思います。

入試というのは年に一回しか行われぬものですから、一年経つとだいたい忘れてしまって、また思い出してということが多いわけですが、今回のことを1つ教訓にすると、やはり各学校に一人は入試の専門家というか、さらに重点的な入試スペシャリストみたいな方を作っていく必要があるのではないかと感じます。どうしても周り番で入試委員というのは気の毒でして、マニュアルの申し送りはありますが、だんだん抜けが出てくるということがよくありますので、そういう時には、それを、チェックする人が必要なのではと感じております。

2系統の方式などは、私は、現場に居る方から本来なら出てくるアイデアかと、我々が出さなくてもやってらっしゃる、気付かれるはず、なのにそれが上がってこなかったということに残念さを感じます。現場主義とは申しますが、現場で改善の知恵が上がってこないということは、1つ組織的な問題であり、さらに引き続き入試の教訓を、学校の教訓を改善につなげていっていただければと思います。

それからマークシート読取機の全校配置ということで、これは入試とは直接関係ありませんが、この会議は、改善のための調査を行う委員会でございます、実は学校で一番不足しているのは調査でありまして、新生生のアンケートを実施されるということであれば、是非、経年の比較ができるような質問項目を、いい質問項目を作っていただいて経年で比較していく、できればその集計を読取機で各学校の先生方が行っていかれると、エビデンスベースでの実践がかなり展開できるのではということも思います。例えば高校での授業評価ということも必要性は言われますけれども集計が大変面倒でやられないわけですが、これを、読取機を使ってやればかなり現場で活用できるかと思いますので、これは入試とはあまり関係ありませんが、是非エビデンスを大事にして改善につなげていくということ、神奈川県として繋げていただけることをお願いしておきます。

事務局の方からも大変御尽力いただきまして、夜遅くメールをいただいたりと、本当にお疲れ様でした。また、委員の皆様も御協力ありがとうございました。

それでは他に、何かございますでしょうか。特になければ、時間が早めではございますが、このあたりで終了させていただきます。神奈川県の高専入学者選抜について、今後ともミスのない適正な選抜が行われるようを期待しておりますし、そのために、どのような工夫改善が必要なのかを是非、学校とも意見交換しながら進めていっていただければと思います。熱心な御協議どうもありがとうございます。

た。本日第6回を持ちまして、この改善委員会を閉じさせていただきます。昨年の3月から度重なる御議論いただきまして、誠にありがとうございました。それでは司会を事務局に引き継ぎます。

(事務局)

本日は年度末のお忙しい中お集まりくださり、活発な御協議を賜りありがとうございました。本日を持ちまして、県立高等学校入学者選抜調査改善委員会を終了いたします。ありがとうございました。